

リネットジャパンリサイクル株式会社は、パソコンなどのリサイクルを中心として、循環型社会への実現を目指している企業です。全国の自治体が、その地域の小中学生に一人一台ずつ配布したGIGAスクール端末構想が5年を経て、入れ替えの時期を迎えようとしています。それらを適正にリサイクルして循環型社会を実現する取り組みと、その具体的な事例について、同社の事業企画部部長の神谷 陽一氏に説明していただきました。

point 再資源化率が98%と高く、ほとんどゴミが出ないサービスを提供

同社は、ネット專業の中古品売買や販売を行うリユース事業「NET OFF」と、小型家電リサイクル法大臣認定のリサイクル事業「ReNet」という2つを主軸に事業を展開している。年間3000万点以上の商品を宅配便(佐川急便)で回収している点が大きな特長だ。

このうち後者のReNetについては、パソコンなどを中心に全国エリアで回収を行っている。パソコンや小型家電などの電子基板には金や銀などのレアメタルが含まれており、資源回収の観点から「都市鉱山」とも言われているのは周知のとおりだ。同社では前出のように、2013年に施行された小型家電リサイクル法に則る認定業者(大臣認定第24号)として活動している。

同社のサービスの特長は、各種小型家電製品の再資源化率が98%と高く、ほとんどゴミが出ないようにしていること。全国730もの自治体と連携・協定を締結することで、地域住民に当社のサービスを紹介してもらっている。

また、自治体以外の事業者とも連携。たとえばパナソニックとは、環境への配慮として使用済みの掃除機を回収したり、タカラトミーとはリチウム電池の安全回収を実施したり、ビッグカメラ・ヨドバシカメラなどの家電量販店では旧製品を引き取っている。

point GIGAスクール端末を活用した探究学習やリユース端末の活用も！

まもなく更新を迎えるGIGAスクール端末については、いま文科省/環境省/経産省の連名で処分方針が策定されている。ここで小型家電リサイクル法の認定事業者への処理委託が求められており、パソコンに含まれる内部データに関しても文科省ガイドラインを踏まえて適切な対応をしなければならない。そのような中で、同社は国の方針に沿ったGIGAスクール端末の回収対応と、データ消去作業も実施している。

さらには、単なる処分だけでなく、プラスアルファの有意義な端末更新も進めているところだ。たとえばGIGAスクール端末は生徒が日常で文房具のように使っているため、循環型社会の実現に向けた学習のための絶好の機会になる。そこで当社では、使用済みの端末を解体する体験などを通じた探究学習を実施。都市鉱山となる端末を解体して確認することで、より生徒の理解が深まるわけだ。

また、使用済みの端末には比較的状态が良いものもあり、安価なリユース端末(1台5000円～)として利活用することで、これまで予算の関係で端末を導入できなかった図書館や福祉施設などの施設で活用することも可能になる。

このように同社では、循環型社会の実現に向けて、全国の自治体と連携協定を結びつつ、GIGAスクール端末の回収とリサイクルを行いながら、さらに付加価値として生徒に対する教育の機会を創出すべく活動している。



リネットジャパンリサイクル株式会社
事業企画部 部長
神谷 陽一氏

地方自治体・通信キャリア・事業会社と様々な企業で、営業・事業企画・アライアンスを担当。直近、自治体とも連携してパソコンのリサイクルを通じた草の根のリサイクル運動・資源循環の実現に向けて活動。

問合せ先

一般社団法人SDGsデジタル社会推進機構(ODS)

info@ods.or.jp

※お問い合わせの際には「ウェビナー通信を見た」とお伝えください



ODS WEBサイト